

台湾向けリンゴ、ナシ等生果実の輸出にあたって注意を要するシンクイムシ類

はじめに

本号1～2頁に記述されているとおり、日本から台湾向けの生果実是一定の条件下により輸出されているところである。

本稿では台湾向け生果実において特に注意されているモモシンクイガ、またリンゴ、ナシ、スモモ等におけるその他の主要シンクイムシ類の生態、被害状況を紹介する。

モモシンクイガ：*Carposina sasakii* Matsumura

海外での分布：朝鮮半島、中国、ロシア極東部、サハリン

寄主植物：リンゴ、ナシ、モモ、スモモ、ウメ、アンズなどのバラ科果実

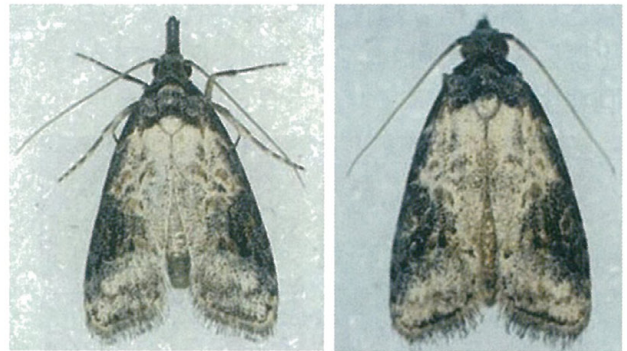
形態：成虫は開張12～20mm。前翅は倒三角形の斑紋が目立ち、翅面の鱗片塊が散在し、後翅は灰色である。雌の下唇鬚は長く前方へ突出する。

生態：卵はリンゴ・ナシでは果実底部の凹み、モモでは果面、スモモでは縫合線部に多く産みつけられ、径0.3mm程度の球形で朱紅色から橙黄色に変わる。ふ化した幼虫は果面を少し移動してから果実中に食入し、果心部及び果肉部を食害する。幼虫は、ふ化後20日程度で老熟し果実から脱出する。終齢(5齢)幼虫は体長14mm程度、体色は乳白色で頭部と前胸背板は褐色、老熟すると黄褐色または橙赤色に変わる。休眠しない幼虫は紡錘形の夏繭を作り蛹化し10～15日で羽化する。秋期の休眠幼虫は球形の冬繭をつくり、幼虫態で越冬し、翌春に夏繭を作り蛹化する。繭はいずれも地表下に多い。成虫は日没2～3時間後から夜半にかけて活動する。走光性は弱い。北海道・東北地方は年1～2回、本州の南西部では年3回発生する。

ナシヒメシンクイ：*Grapholita molesta* (Busck)

海外での分布：全世界の温帯地域

寄主植物：ナシ、リンゴ、スモモ、モモなどのバラ科果実。モモ、ウメ、サクラ、ピワなどのバラ科新梢。



モモシンクイガ成虫(♀) モモシンクイガ成虫(♂)



モモシンクイガによるモモ被害果(岡山県提供)



モモシンクイガによるスモモ被害果

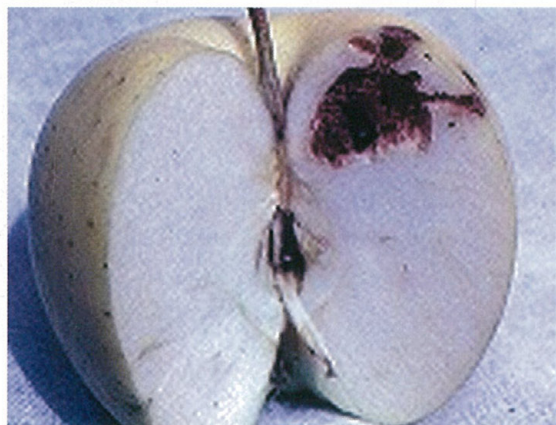
形態：成虫は開張10～16mm。前翅は暗褐色で、鱗片の先端は灰白色で不明瞭な横条を形成する。後角上紋は2本の平行な鉛色条とその間に挟まれる2～4個の黒点がある。後翅は褐色で、雄は外縁に沿って灰白色の不明瞭な紋がある。

生態：卵は主に葉裏や果実表面に1個ずつ産みつけられる。ふ化幼虫は新梢に食入し、糞を排出しながら内部を食害するので枝先が枯死す

る。また、果実が形成されると幼虫は果実に食入し、果肉部や種子を含む果心部を食い荒らす。老熟した幼虫は果実から脱出し、樹皮の割れ目などに繭を作り蛹化する。成虫は4～9月に出現し、低温地は年2～3回、暖地では4～6回発生する。



ナシ果実上のナシヒメシンクイ成虫(岡山県提供)



ナシヒメシンクイによるリンゴ被害果(岩手県提供)

モモノゴマダラノメイガ:

Conogethes punctiferalis (Guenée)

海外での分布: 韓国、中国、台湾、東南アジア

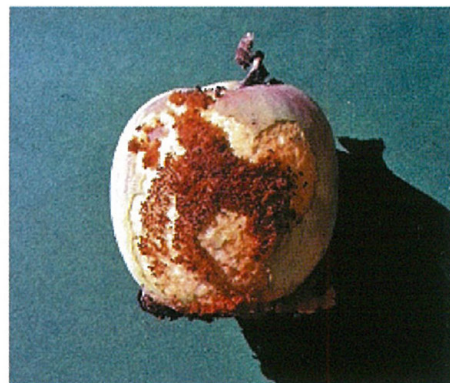
寄主植物: モモ、ナシ、リンゴ、ビワ、クリ、カキ、ザクロ、ミカンなどの果実

形態: 成虫の開張は25～26mmで、頭部・胸部ともに黄色である。腹部は黄色で各節に2～3個の黒点がある。翅は黄色で前翅に27個前後、後翅に16個前後の明瞭な黒点がある。

生態: 幼虫は広食性で各種果実を食害する大害虫として知られている。卵は寄主植物幼果表面に点々と産みつけられ、ふ化した幼虫は果肉内に食入し、果外に大量の粒状の糞を排出する。老熟すると果実から脱出し、樹皮の割れ目などに繭を作り蛹化する。老熟幼虫で越冬する。年2～3回発生し、第1化成虫は5月～7月、第2化は7月～8月、第3化は8月～11月に出現する。



モモノゴマダラノメイガ成虫(♀)



モモノゴマダラノメイガによるモモの被害果

各種シンクイムシ類幼虫の特徴

①モモシンクイガ

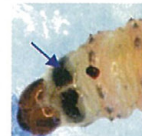
幼虫は全体的に黄白色～濃赤色。体長14mm程度。



毛の付け根は茶褐色で小さいが目立つ



前胸背楯は褐色



②ナシヒメシンクイ

幼虫は全体的に紅色。体長12mm程度。



毛の付け根の色は目立たない



前胸背楯は淡黄褐色

③モモノゴマダラノメイガ

幼虫の胸部は青黄褐色で背面は広く赤みを帯びる。体長25mm程度。



毛の付け根は暗褐色で大きく、目立つ



前胸背楯は褐色